

第 9121155 号
初審 (訴願) 引証 附件
再審

⑩ 日本国特許庁 (JP)
⑫ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開

昭59—51070

⑤ Int. Cl.³
B 65 D 83/08
A 47 K 10/42

識別記号

庁内整理番号
7617—3E
7151—2D

④ 公開 昭和59年(1984) 3月24日

発明の数 2
審査請求 有

(全 4 頁)

⑬ ウエットティッシュ封入袋およびその製造法

土佐市北地2424番地 7

① 特 願 昭57—158618

⑦ 出 願 人 三昭紙業株式会社

② 出 願 昭57(1982) 9月10日

土佐市北地2424番地 7

③ 発 明 者 森澤豊明

⑧ 代 理 人 弁理士 鈴木武夫

明 細 書

1. 発明の名称

ウエットティッシュ封入袋およびその製造法

2. 特許請求の範囲

- (1) 袋体の一面に、U字状ミシン目の両先端に鉤状ミシン目を延設した形状のミシン目を入れるとともに、上記ミシン目を、裏面に粘着剤を塗布した藍片で覆つたことを特徴とするウエットティッシュ封入袋。
- (2) 長尺のシートに、U字状ミシン目の両先端に鉤状ミシン目を延設した形状のミシン目を入れる第1工程と、裏面に粘着剤を塗布した藍片を、上記ミシン目を覆うように貼着する第2工程と、上記シートでウエットティッシュを包み、ウエットティッシュの裏面中央縦断方向にシールする第3工程と、ウエットティッシュを包んだシートを横断方向にシールおよび切断し、袋化する第4工程とを連続して行うことを特徴としたウエットティッシュ封入袋の製造法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、ウエットティッシュ封入袋およびその製造法に関する。

従来より袋体の一面にミシン目が設けられ、該ミシン目を、粘着剤が裏面に塗布されたラベルで覆い、ラベルをめくつた際ミシン目に開かれた部分がラベルの裏面に接着したまま剥がれ、開口部が形成される構成のウエットティッシュの封入袋は種々製造されているが、閉ループのミシン目を設けたものは、ラベルをめくつた際にラベルが封入袋から完全に剥離しないようにラベルの一端を固着する工程が必要であり、一方、U字状ミシン目を設けたものは開口部が形成された後もミシン目に開かれた部分は封入袋に繋がっているため、ラベルをめくつた際にラベルが封入袋から完全に剥離することはないが、U字状切れ目の両先端部において切れ目が走らないように補強片を貼着する工程を必要とする。

本発明は、U字状ミシン目の両先端に鉤状ミシン目を延設してU字状ミシン目の欠点を解消

することにより、補強片貼着工程を省略することができ、また、ラベルの一端を固着する工程も必要とせず、従来のものより工程少ない製造工程によるウェットティッシュ封入袋とその製造法を提供することを目的とするものである。

以下、図に基づいて一実施例を説明すると、本発明に係るウェットティッシュ封入袋(第1図)は、気密性を有する扁平な袋体(1)の上面に口型ミシン目、即ちリ字状ミシン目(2a)の両先端に鉤状ミシン目(2b)(2b)が延設された形状のミシン目(2)が設けられ、該ミシン目(2)は第2図に示すように蓋片(3)で覆われている。該蓋片(3)の裏面には粘着剤が塗布されており、ウェットティッシュ(6)の使用の都度開閉が可能である。初使用の際蓋片(3)をめくると、ミシン目(2)に開かれた舌片(4)は蓋片(3)の裏面に接合したまま剥がれ、開口部(5)を形成する。上記舌片(4)は袋体(1)から完全には切り離れず、袋体(1)に繋がっており、該舌片(4)は蓋片(3)の完全剝離を防止する役目を果たす。

本発明に係るウェットティッシュ封入袋の製造法は上記4工程を連続して行うものである。

叙上の如く、本発明に係るウェットティッシュの封入袋はリ字状ミシン目の両先端に鉤状ミシン目を延設することにより、蓋片をめくつた際切れ目に懸かる負担を鉤状切れ目の部分で受け止め、線状切れ目の場合のように切れ目が走るのを防止したことを特徴とするものである。そのため、切れ目が走ることを防止する補強片を貼着する必要がなく、製造工程において工程を省略することができる。

また、ミシン目が閉ループではないので、蓋片をめくつた際も舌片は袋体に繋がっており、該舌片により蓋片が端まで剥がれるのを防止できるため、蓋片の端部を袋体に固着する必要がない。

本発明は新規な構成にしてその実用上の効果は著大である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係るウェットティッシュ封

第3図には蓋片(3)をめくつた状態が示されている。蓋片(3)をめくつた際、同時に舌片(4)も引張られるが、リ字状ミシン目を入れた場合とは異なり、鉤状切れ目の部分に力加わるので、負担に耐えることができ、切れ目が拡大する虞はない。

次にウェットティッシュ封入袋の製造法を第4図に基づいて説明すると、第1工程は長尺のシート(7)に口型ミシン目、即ちリ字状ミシン目(2a)の両先端に鉤状ミシン目(2b)(2b)が延設された形状のミシン目(2)を入れる工程である。第2工程では裏面に粘着剤を塗布した蓋片(3)をラベラーを用いて上記ミシン目(2)を覆うように貼着する。第3工程ではビロー型包装機を用いてウェットティッシュ(6)を上記シート(7)で包み、シート(7)の両端部の合わせ目(8)がウェットティッシュ(6)の裏面中央縦断方向になるようにシールする。最後に第4工程においてウェットティッシュ(6)を包蔵したシート(7)を横断方向にシール及び切断を同時に行ない、単袋化する。

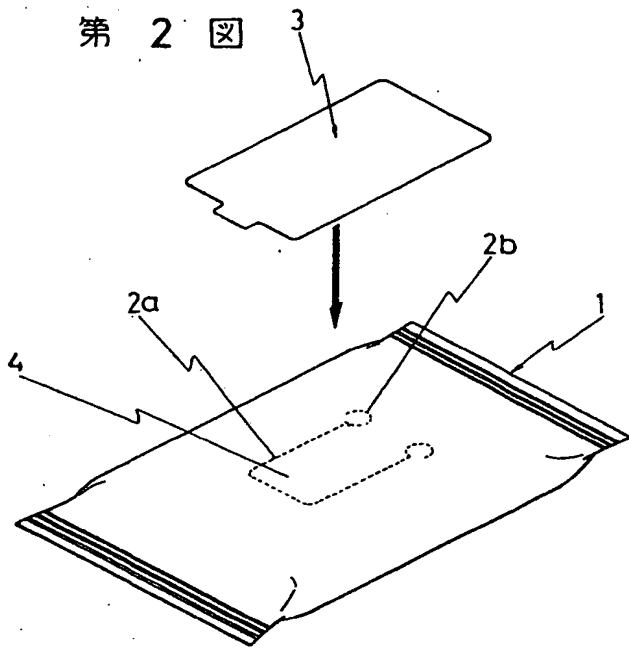
入袋の斜視図、第2図は分解斜視図、第3図は蓋片をめくつた状態を示す斜視図、第4図は製造工程を示す説明図である。

図中符号：(1)…袋体、(2)…ミシン目、(2a)…鉤状ミシン目、(3)…蓋片、(4)…舌片、(5)…開口部、(7)…シート。

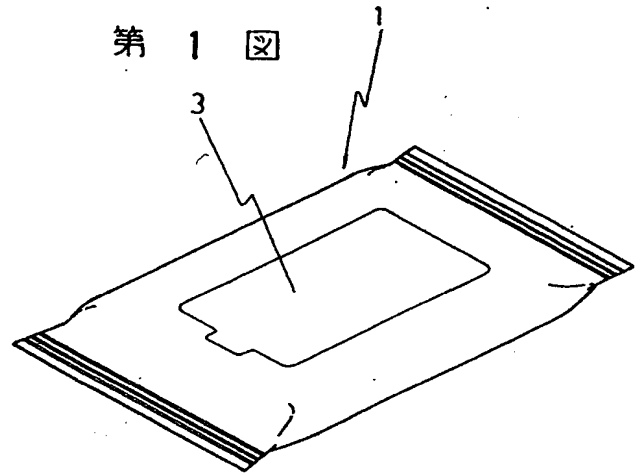
出願人 三 昭 紙 業 株 式 有 限 公 司

代理人 鈴 木 武 夫

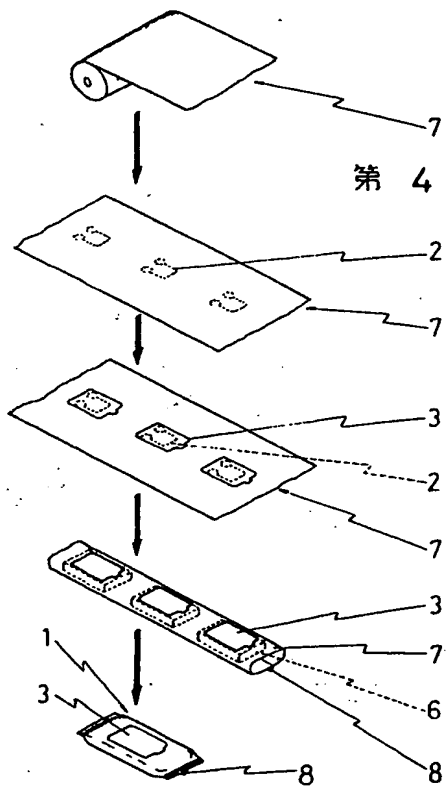
第 2 図



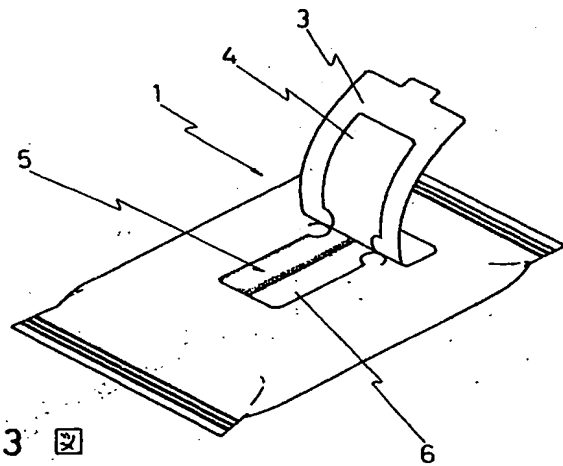
第 1 図



第 4 図



第 3 図



手続補正書 (自発)

昭和57年 12月 14 日

特許庁長官 若 杉 和 夫 殿

1. 事件の表示

昭和57年 特願 第158618号

2. 発明の名称

ウェットティッシュ封入袋およびその製造法

3. 補正をする者事件との関係 出願人

住 所 (居所) 高知県土佐市北地2424番地7

氏 名 (名称) 三 昭 紙 業 株 式 有 限 公 司

代表取締役 森 澤 登 明

4. 代 理 人

〒550 大阪市西区北堀江1丁目7番3号

大花興産ビル2階 TEL. 531-7431~5

(2858) 弁理士 鈴木 武 夫

5. 補正命令の日付 (自発)

昭和 年 月 日

(補正命令通知の発送日) 昭和 年 月 日

6. 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の欄、「図面の簡単な説明」の欄および図面。

7. 補正の内容

別紙のとおり

特開昭59- 51070(4)

1. 明細書第5頁の第2行と第3行との間に、次の文を挿入する。

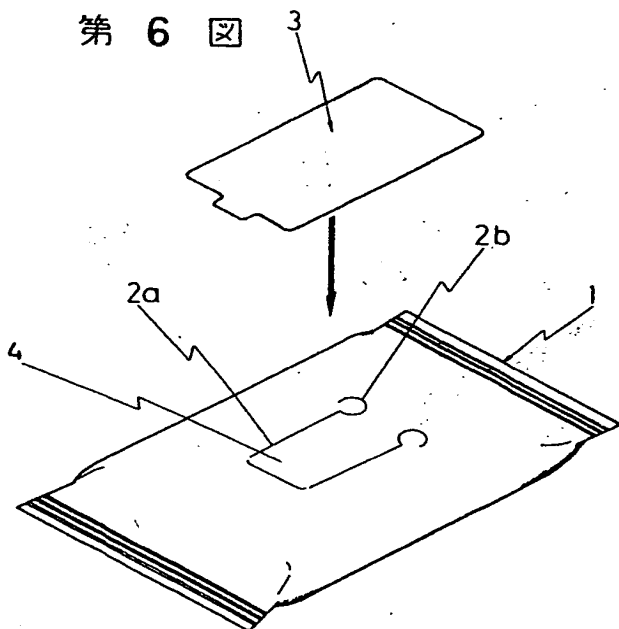
「なお、袋体(1)を形成するシート(7)が以下の場合、第5図に示すミシンH(2)の切り込み部分を長くしたもの、あるいは第6図に示す更長切り込み部分を長くしたものが初使用の際、ミシンH(2)に刺まれた布片(4)が剥がれ易く、好都合である。」

2. 明細書第6頁第5行に記載の「説明図」としてである」との間に、次の文を挿入する。

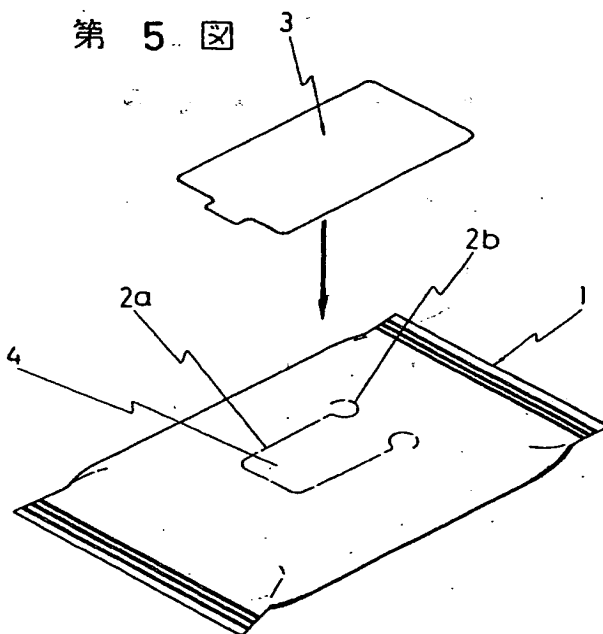
「、第5図および第6図はウェットティッシュ封入袋の他の実施例を示す分解斜視図」

3. 図面の第5図および第6図を追加する。

第 6 図



第 5 図





TITLE:

WET TISSUE ENCAPSULATING BAG AND THE METHOD FOR
PRODUCING THE SAME

CLAIM 1

A wet tissue encapsulating bag, comprising an U-shaped sewing line formed in the bag body thereof, the sewing line being configured to have hook-shaped sewing lines extending from two ends thereof and being covered by a cover piece having an adhesive coated on the inside face thereof.



THIS PAGE BLANK (USP)